

Tokyo Midtown Award 2016

～才能あるデザイナーやアーティストの若い力を応援する～

アートコンペ・デザインコンペ いよいよ募集開始！

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、次世代を担うアーティストやデザイナーの発掘・応援を目的とした「Tokyo Midtown Award 2016」を、<アートコンペ>と<デザインコンペ>の2部門で開催しています。開業以来、東京ミッドタウンは『“JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)”を創造・結集し、世界に発信し続ける街』をコンセプトに街づくりを進めてきました。「Tokyo Midtown Award」は、その一環として2008年より毎年開催しているアートとデザインのコンペティションで、今回で9回目の開催となります。

Tokyo Midtown Awardは前回までに、述べ約12,000組の若い才能がチャレンジし、アートコンペでは39組、デザインコンペでは69組の受賞者が生まれ、商品化など夢への一歩を踏み出しています。

目次

1. いよいよ募集開始！Tokyo Midtown Award 2016
 - ・ 未来への扉はここで開く。Tokyo Midtown Award 出身者の活躍
2. Tokyo Midtown Award 受賞者支援 ～受賞を通して更なる飛躍を！～
 - ・ アートコンペ / デザインコンペ副賞
 - ・ アートコンペ<ストリートミュージアム>
 - ・ デザインコンペ<商品化サポート>

1. いよいよ募集開始！Tokyo Midtown Award 2016

5月12日(木)からアートコンペ、6月24日(金)からデザインコンペの募集がスタートします。毎年多くの応募があり、年々レベルが上がっている本コンペ。今年も力作をお待ちしています。

※応募資格や審査員についてなど、開催内容の詳細については、東京ミッドタウン公式サイトでご確認いただけます。

<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>

<アートコンペ>

テーマ：応募者が自由に設定

募集期間 5月12日(木)～6月2日(木)必着

グランプリ(1点)・・・100万円
準グランプリ(1点)・・・50万円
優秀賞(4点)・・・10万円

<デザインコンペ>

テーマ：Anniversary

募集期間 6月24日(金)～7月25日(月)必着

グランプリ(1点)・・・100万円
準グランプリ(1点)・・・50万円
優秀賞(1点)・・・30万円
審査員特別賞(5点)・・・5万円

◆ 未来への扉はここで開く。Tokyo Midtown Award 出身者の活躍

Tokyo Midtown Awardの受賞者でアーティストやクリエイターとして活躍する方をご紹介します。

<アートコンペ> 2012年度入選・大村雪乃



【大村雪乃】
現代作家

丸シールのみで都会の夜景を再現する絵画作品を制作、2012年度入選。受賞後は、誰でもアートに触れられる制作方法が数々のメディアで注目を浴びアンダース上海での作品恒久展示、「北海道新幹線開業カウントダウンステーション」でのワークショップ開催、ファッションブランドとのコラボレーションなど幅広く活躍しています。

<デザインコンペ> 2008年度水野学賞・鈴木啓太



【鈴木啓太】
PRODUCT DESIGN
CENTER, THE
ディレクター&プロダクト
デザイナー

審査員の水野学さんから大きく評価され、商品化された作品、富士山グラス。商品化に留まらず、鈴木さんは水野さんと中川淳さん(中川政七商店)と3人でプロダクトデザインブランド「THE」を設立するなど、活躍の場を広げています。

<アートコンペ> 審査スケジュール



<デザインコンペ> 審査スケジュール



2. Tokyo Midtown Award 受賞者支援 ～受賞を通して更なる飛躍を！～

<アートコンペ> 受賞者支援 ハワイ大学のプログラムに招聘

アートコンペグランプリ受賞者をUniversity of Hawai'iのDepartment of Art and Art Historyが実施するアートプログラムに招聘しています。数多くのアーティストや学者が招かれる歴史ある本プログラムに、これまでに3名のグランプリ受賞者が参加しました。実際にハワイに滞在し、ハワイの芸術文化に触れ、ハワイ大学の多彩なアートプログラムに参加しながら作品を制作する機会が与えられます。



写真①②

2015年度グランプリの田島大介氏。2016年2月14日～2月26日までハワイ大学に滞在し、前半1週間はスタジオワーク、後半1週間は自身の作品でライブドローイングを開催しパブリックビューイングを行った。

フリーハンドで描く田島氏の繊細かつダイナミックな作品に、期間中約100人の学生・一般客が見学を訪れ、交流した。

【田島大介】

作品:「五金超大国Ⅱ」/ Tokyo Midtown Award 2015 アートコンペ グランプリ

グランプリを受賞したことやハワイ大学のプログラムに参加させていただけることにも驚きました。ハワイ大学で出会った人々は、それぞれが異なる人種、国籍、年齢で、様々なバックグラウンドや考え方をもっているため、尽きることのない可能性と、価値観の多様性を学ぶことができました。ハワイを含めた欧米圏と違い、日本はアートに対する偏見が未だ根強いです。世間から社会行為として認められておらず、文化としての理解も乏しいので活動を続けにくい風潮があります。しかしだからこそ自分は、その風潮に逆らうように作品の制作をこれから自分が死ぬまでやり通したいと思っています。



<デザインコンペ> 受賞者支援 「ミラノサローネ国際家具見本市」開催中にイタリア・ミラノご招待

デザインコンペグランプリ受賞者は、世界中のデザイナー、バイヤーが集まる「ミラノサローネ国際家具見本市」の開催期間中に、イタリア・ミラノへご招待し、最先端のデザインを視察いただきます。 ※グループでの受賞の場合は2名まで



▲2016年4月の吉田氏、栗原氏のミラノ現地での街中デザインイベント視察の様子



【吉田貴紀 / 栗原里菜】

作品:「ことはね」(写真下)

Tokyo Midtown Award 2015 デザインコンペ グランプリ
本アワードは、他のどのデザインコンペとも違うトーンがあり憧れました。荣誉ある賞をいただき、身の引き締まる思いです。ミラノ視察では世界的プロダクトメーカーの新作や著名デザイナーの作品を直接拝見することができ刺激を受けました。なによりミラノという都市が、街をあげて世界中の人とデザインを楽しんでいる様子が印象深かったです。ミラノサローネのように、世界中から人が集まる場で「ことはね」が活躍できればさらに嬉しく思います。



<アートコンペ> 受賞者支援
自分の作品を多くの人に。都会のまん中、東京ミッドタウンでの展示
「ストリートミュージアム」開催

アートコンペ受賞者の支援として展示企画「ストリートミュージアム」に参加できることもTokyo Midtown Awardの魅力のひとつ。東京ミッドタウンのオープンスペースで新たな作品発表を行う機会となり、今年も「Tokyo Midtown Award 2015」のアートコンペ受賞作家6組がアート作品を展示しました(2016年3月18日(金)~4月17日(日)/東京ミッドタウンプラザB1)。

また、今秋開催予定の「六本木アートナイト」へも特別参加し、ワークショップの開催なども予定しています。



①



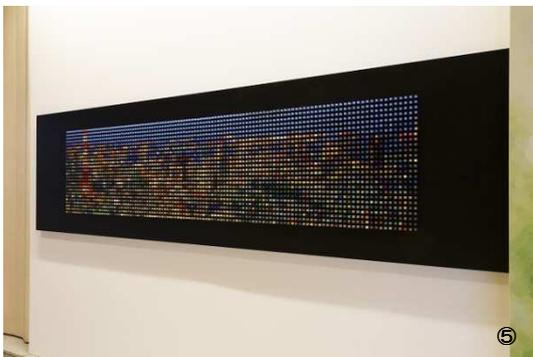
②



③



④



⑤



⑥

①「階層的遭遇」
上坂 直

②「Lid of the sky」
風間天心

④「Sleep in spring」
尾花賢一

⑤「春の夜」
阿部岳史

エレベーターの扉が開く瞬間に出会う、様々な生活や風景がある。ある人は新しい職場と出会い、ある人は華やかなデパートの売り場と出会い、またある人はこれから住むマンションの部屋と出会うかもしれない。何層にも積み重なった階で成り立つ建物内において、エレベーターによる上下移動と扉の開閉もまた、都市らしい場との出会い方のひとつではないだろうか。今回はエレベーター空間をロッカーに閉じ込め、エレベーター内独特の期待感や緊張感を共有したい。

寺院建築で用いられる天蓋をモチーフに制作。仏教上の天蓋は、日の強いインドで仏陀に差されていた日傘が起源とされていますが、「天に蓋をする」と書くように、我々が「天を仰ぐ」時に芽生える「信仰」の根源を感じます。何か大きな存在に抱かれるような、ゆったりとした時間を過ごしてもらえたら幸いです。

③「未確認生命体 II」
三上俊希

青い殻のようなものから何かが飛び出し、鼓動している。今にも中から生命体が出てきそうだ。

穏やかな春の訪れは、心地よい眠りへと誘い離さない。新たな生活、出会い、環境の変化は、期待と不安、興奮と喜びとともに少しずつ体に疲労を蓄積させる。そんなドラマチックな毎日からこそ、作品の前であなたとわずかな一瞬を共有したい。暖かな日差しや喧騒、石のオブジェに囲まれて、目を閉じ、肩の力を抜き、心を安らげる。生命の息吹を感じるこの季節がもたらす眠りのように、心と体を解きほぐし新たなスタートのきっかけとなる事を願って。あなたの目の前の覆面男たちはただひたすら寝ているだけだけど。

夜景が醸し出す高揚感は、春になり夜が次第に暖かくなっている高揚感に似ています。メトロアベニューを六本木の夜景を窓から眺めるように歩くと、作品に近づくにつれて解像度がほつれ、闇と光のキューブに分解されていく作品です。

⑥「A. D. 2098」
田島大介

留まることなく、過剰に進化していく都市の群像、繁栄を鳥瞰で描きました。未来の空から見た大都市東京の風景です。

<デザインコンペ> 受賞者支援 商品化サポート

デザインコンペでは、受賞作品の商品化をサポートしていることも本アワードの特長です。過去8回の実施で、12作品が商品化、1作品がイベント化し、商品は全国各地のセレクトショップなどで販売されています。

代表例として、2008年度水野学賞を獲得した「富士山グラス」や、2008年度学生の部で準グランプリを獲得し、発売後は累計80万個を売り上げるヒット商品となった「歌舞伎フェイスパック」があり、また、2015年に発売が決定した作品ではクラウドファンディングへの参加など新たな取り組みも行っています。

Tokyo Midtown Award を代表する商品化例

「日本の新しいおみやげ」をテーマに募集した2008年度のTokyo Midtown Awardデザインコンペ。両作品ともこのコンペから誕生したヒット商品です。

「富士山グラス」は水野学氏のサポートにより2010年菅原工芸硝子株式会社から発売が決定しました。「歌舞伎フェイスパック」は受賞後6年が経過したあと、一心堂本舗が製造を可能にし、満を持して発売。インパクトのあるデザインが好評で、発売当時からSNSで多くの写真がアップされるなど話題となっています。



- ①富士山グラス 4,078円 (鈴木啓太)
今や30万個を売り上げた富士山グラス。デザイナーの鈴木氏は、デザインコンペ審査員の水野学氏とプロダクトデザインブランド「THE」を立ち上げるなど活躍している
- ②歌舞伎フェイスパック 900円(小島 梢)
歌舞伎座や羽田空港で東京のお土産として人気を博したフェイスパック。デザイナーの小島氏はこれに続くシリーズのデザインも担当し、活躍の場を広げている

新たな可能性を見出している、商品化サポート

2015年秋に、一挙に4作品の商品化が決定し、2014年の受賞作品から『kokki(コッキ)』、『おみく枝(オミクジ)』、『origami tale(オリガミ テイル)』の3作品が、そして2013年の受賞作品からは『切手用はがき』が商品化したしました。そのうちの2作品をご紹介します。



kokki 1,836円/1枚 山本悠平

世界共通で認識される4種類の国旗を形取った器に様々な国の料理を盛り付けることで、国境も文化も隔たりがないことを表したい、というコンセプトが評価され、2014年度優秀賞を獲得。

岐阜県の老舗陶器メーカー小田陶器株式会社の協力のもと、2015年12月に発売。メーカーとしてもチャレンジングな生産であったため、作家の山本氏からクラウドファンディング利用の提案がありました。初期ロット400枚のうち半分にあたる枚数の注文をクラウドファンディングサイト「A-port」で募り、見事目標を達成して、限定パッケージで申込者へ届ける結果となりました。



おはなしおりがみ (作品名: origami tale) 1,404円 遠藤可奈子

折り紙と物語を和えた作品。折り紙を折ることで物語を楽しめることができる。2014年度小山薫堂賞を受賞。

東京ミッドタウンの3Fにあるサントリー美術館。この美術館の近くのスペースで1年間受賞作品の展示が行われることも、Tokyo Midtown Awardの特長のひとつです。「おはなしおりがみ」はこの展示を見た出版社の担当者から書籍としての商品化を提案されました。展示を通して作品としての良さと発売する側のマッチングが叶った例となりました。

※掲載商品は全て2016年4月現在の税込価格

◆ 若い才能を応援する、Tokyo Midtown Award



狩谷俊介(東京ミッドタウンマネジメント株式会社 タウンマネジメント部)

今回でよいよ9回目を迎える本アワード。2013年より実施しているハワイ大学アートプログラム招聘(アートコンペグランプリ副賞)は3度目、2016年4月のミラノサローネ国際家具見本市への招待(デザインコンペグランプリ副賞)は初実施が無事終了しました。また、アートコンペは10周年の節目を目前に、今年は新たに2名の審査員を迎え、正しい審美眼をもったプロフェッショナルたちによる、より一層洗練された審査へ進化を図っています。そしてデザインコンペは、受賞作品の商品化実現の達成のために、さらなる情報発信を強化してまいります。日本の若き才能が羽ばたく晴れ舞台として、本アワードをより進化させていきます。